

— 燕のもののづくりの歴史をふりかえる —

時代	主なできごと
江戸時代初期	■和釘作り始まる 農家の副業として和釘を製造、金属産業の原点
1701 年 (元禄 14 年)	■間瀬銅山開鉱 良質な銅が産出し、燕の金属加工を支える
1736～41 年 (元文年間)	■ヤスリ作り始まる 会津や地元職人により技術伝来
1764～72 年 (天明年間)	■鋳起銅器技術伝来 仙台から会津を経て燕に伝わる
1764～72 年 (明和年間)～1776 年 (安永 5 年)	■煙管作り広まる かざり職人らが江戸・会津より技術を伝える
江戸時代中期	■彫金技術伝来 江戸・会津から伝わるが詳細不明
明治時代	■和釘の衰退 洋釘の普及で和釘産業は大打撃
1885 年 (明治 18 年)	■会津から彫金師が燕に移住し技術を定着
1911 年 (明治 44 年)	■金属洋食器の初受注 鋳起銅器技術を応用し手作りで製造
1918 年 (大正 7 年)	■煙管の型作り成功 燕は日本一の煙管産地となる
1920 年 (大正 9 年)	■間瀬銅山閉山 金属洋食器製造の機械化が進展 電力導入で量産化、輸出も拡大
1929 年 (昭和 4 年)	■世界恐慌の打撃 東南アジアに新たな販路を開拓し、グローバル化を実践
1930 年代	■真鍮・銅・アルミ製品生産 金属ハウスウェア産業が成立
1941 年 (昭和 16 年)	■戦時体制で金属洋食器禁止 国家総動員法で軍需産業へ転換
戦中～戦後	■紙巻きたばこの普及により煙管産業衰退
1946 年 (昭和 21 年)	■アメリカの進駐軍から金属洋食器の大量受注 金属洋食器製造で戦後復興の大きな転機
1965 年 (昭和 40 年) 頃	■「燕通い」通勤ラッシュ 燕駅の一日の平均乗降客数が 17,000 人以上に。市内に約 1,200 の工場が操業し活況をみせる
1970 年代	■輸出減退と国内開拓 貿易摩擦を機に新素材導入など模索
1971 年 (昭和 46 年)～ 1980 年代	■円高進行と新分野開拓 自動車部品・医療器具などへ拡大
1980 年代以降	■新興国の台頭 新興国の製品に市場を圧迫され始める
2013 年 (平成 25 年)	■燕三条 工場の祭典初開催 ものづくり現場を一般公開する産業観光イベントの始まり
現在	■精密加工・難素材分野へ チタンやマグネシウムなどを扱い独自性強化

400 年続く燕のもののづくり。時代の変化に合わせて新たな挑戦を重ねながら、今に受け継がれています。

和釘から始まったものづくりの歩み

江戸時代、農家の副業として始まった和釘づくりが、金属加工の聖地となる、このまちの産業の礎を築きました。その後、暮らしの道具として鋳起銅器が作られ、明治・大正時代には、金属洋食器や煙管の機械化による大量生産を行うようになりました。燕の

ものづくり産業は、手仕事中心の時代から蓄積してきた技術を応用・転用し、未知の分野にも順応してきました。また、地域内で関連する工程を分業体制で行っていたことで、社会情勢に合わせた事業転換も可能となり、多様化した金属加工を中心とした技術は、世界に誇る「ものづくりのまち・燕」を形成し、今日の燕のもののづくりを支えています。

日本一の産地となった煙管の歴史

煙管は日本の暮らしの中に憩いとくつろぎを与える小道具として、親しまれてきました。煙管の製造が燕市で始まったのは、江戸中期に会津（福島県）と江戸からその技術が伝わったことがきっかけとされています。そして、も

技術が一体となって発達し、大正時代に機械化による量産に成功したことで、燕市は日本一の煙管産地となりました。しかし戦後、紙巻きたばこの普及で衰退。それでも、手仕事による煙管制作は現代まで受け継がれてきました。そして、煙管産業で培われた研磨やプレスといった技術は、燕の金属加工の基盤となり、今に息づいています。

特集

人を惹きつける、燕のもののづくりの魅力とは

燕との出会いと移住の決意

燕に移住した若き煙管職人

今号では、ひとりの若者が煙管を通じて出会った燕の職人魂と人とのつながり、その先に描く未来への挑戦を紹介していきます。

煙管の作り手として埼玉県から燕市に移住してきた若者がいます。「六張煙管」の岩浪さんです。

岩浪さんが最初に煙管と出会ったのは、大学時代。「人と違うことをしたい」という思いがきっかけでした。最初に偶然手にしたのは、燕市の煙管職人である飯塚昇さんの作品。実用性と芸術性を兼ね備えた作品に魅了され、煙管の文化や歴史的背景に興味を持つようになりました。

その後、考古学の専門的な知識を深めるために大学院へ進学。卒業前に、北陸地方の博物館を巡っていたときに訪れたのが燕市産業史料館でした。そこで、「丸山コレクション」の煙管に感動し、製造工

程の模型を目にしたときに、「自分でも作ってみたい」と思い挑戦を始めます。

卒業後の2020年4月から、煙管制作を始めた岩浪さん。YouTubeや骨董品を頼りに独学で制作を開始し、試行錯誤を重ね、手先が器用だったことから、夏頃には初めて販売できる製品を作り上げるまでになりました。

同年12月、SNSで知り合った人の紹介で、燕市に本店がある玉川堂の銀座店を訪ね、番頭の山田立さんに出会ったことが燕市への移住の大きなきっかけとなります。地域の温かい受け入れや市の移住担当者のサポートもあり、翌2021年に燕市への移住を決断しました。



いわなみ りく 岩浪 陸さん
ろくばりきせる 六張煙管

1995 年埼玉県生まれ。東海大学、大学院で考古学を専攻。卒業後の 2020 年 4 月から独学で煙管を学び、制作を開始。同年 10 月「六張煙管」を開業し、2021 年に燕市に移住。趣味は煙管集め。



【学生時代】考古学を専攻していた岩浪さん▲

※燕市出身の実業家・丸山清次郎さんが収集した日本有数の煙管一大コレクション